

会議

マレーシアと省エネ支援に関する令和5年度第4回オンライン会議を開催しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンター（ECCJ）では、資源エネルギー庁の委託を受けて、令和5年度のマレーシアとの二国間省エネ協力事業を実施しています。今年度実施した受入研修、専門家派遣等の活動内容を振り返ると共に、来年度への要望を聴取すべく、2月20日に今年度最終となるオンライン会議を開催しました。



1. 会議出席者：

(1) マレーシア側：天然資源・環境・気候変動省 (NRECC) 4名，EC(エネルギー委員会) 1名，SEDA(持続可能エネルギー開発機構) 1名、計6名

(2) 日本側：ECCJ国際協力本部 6名

2. 会議概要と結果：以下の内容を確認し討議

(1) マレーシアの省エネ法令関連状況：

- ① 昨年10月に下院を通過。今年3月に上院に法案を提出予定。その後レビューがあり、7月に立法での成立を見込む
- ② 成立後、1年半の猶予期間を経て執行となる予定

(2) 今年度の実施活動結果：

① BECMY10受入研修：

- ・ 模擬省エネ診断演習も含めた受入研修に対し熱い感謝が代表Dr. Idaより表された
- ・ 研修内容を、熱エネルギー等の研修プログラム開発やエネルギー管理研修等に活用
- ・ 研修設備での実技研修経験を参考に、マレーシアで実技研修施設を2つの大学で設置を計画。熱を含めたエネルギー診断を主目的に、ボイラー等の研修を実施予定

② 省エネモデル構築に関するパイロットプロジェクト：

- ・ ECCJは昨年7月からの進捗を改めて共有し、協力企業とNRECCの協力を謝意を表した
- ・ さらにECCJは、協力企業の関係者の研修を実施することを現地で提言した事を報告
- NRECCは、協力企業各社から要望があれば対応することを表明

(3) 今後の協力に対する要望：下記の2点に関して要望を聞き置いた

- ① TOT(Training of Trainers)：エネルギー診断分析、生産工程・ビルのベンチマーク制度等のテーマでの実施を要望
- ② パイロットプロジェクト：協力企業での実施支援を継続

以上